

## ウラジロンの犬・猫尿路健康維持に対する効果\*

サガー パッタナキッサクル<sup>1)</sup> タナポン マハッチャリヤクン<sup>1)</sup>  
 Sa-nga Pattanakitsakul Thanaporn Mahutchariyakul  
 ルアンソーム ニサシオン<sup>2)</sup> 大川 博<sup>2)</sup>  
 Nisachon Ruangsom Hiroshi OKAWA

ウラジログシエキス末を配合した動物用健康補助食品「ウラジロン」を尿路疾患症状を呈する犬及び猫に投与し、有用な結果を得ることができたので報告する。

キーワード：ウラジログシ、抗炎症作用、下部尿路疾患

### はじめに

ウラジロンの主成分ウラジログシ(学名: *Quercus Salicina*) (QS) は日本、韓国、台湾に自生するブナ科(ブナ科)の常緑樹である。ウラジログシの葉、茎、樹皮、芽の抽出物は生薬として広く利用されてきた。日本では医薬品、漢方茶や健康補助食品として流通している。QSは細胞株・人間・動物に生物活性があり、抗酸化・抗炎症・抗発癌性・心臓保護の効果が記載されている。ネズミ尿管結石試験で、ウラジログシ抽出物が結石排出の促進につながる事が分かった。腎静脈を収縮させることにより、高血圧の低下、尿酸の低下、および尿量の低下、尿路結石症患者における利尿効果、リン酸カルシウム結晶の溶解およびネズミ膀胱の絹糸核での結晶成長の防止にいくつかの潜在的な効果があることも示唆している。

ウラジロンは、ウラジログシエキス末、酵母エキスを主成分としたペット用栄養補助食品です。尿路に問題のある犬や猫のサプリメントとしてウラジロンの効果を検証するために、薬の投与およびウラジロンを適量毎日経口併用して、尿検査(試験紙・尿比重・尿沈渣検査・尿性状)を行った。

本実験では、臨床症状、病歴、および血液/尿検査に基づいて尿路疾患を診断し、治療は特定の診断に基づいている。また、尿路疾患治療と併せてウラ

ジロンを使用した。

### 材料と方法

尿路疾患症状を呈する猫(15頭)と犬(8頭)計23頭(平均年齢8.3歳)を対象に行った。ウラジロンの投与量は、体重10kg未満は2-4粒/10-20kgは4-6粒/20-30kgは6-8粒/30kg以上は8~粒を目安に与えた。

投与観察期間は4週~12週を対象とした。

ウラジロン単独投与は14頭。ウラジロンと薬剤を併用した症例は9頭であった。

**研究の検査分析:**採尿は自然排尿、カテーテル尿、膀胱穿刺尿のいずれかで行った。獣医師の監督の下で、一般身体検査及び尿検査(試験紙・尿比重・尿沈渣検査・尿性状)を行った。

### 結 果

#### 1. 動物の症状

15頭の猫は、3頭が膀胱炎、2頭が尿路感染症、1頭が腎臓結石と診断され、9頭は確定診断できなかった。また、5頭の猫は血尿を示していた。8頭の犬は、5頭が腎臓結石と診断され、3頭が確定診断されていなかった。

\*Effect of URAJIRON as a food supplement on maintaining urinary tract in canines and felines

<sup>1)</sup>分子医学部門研究部医学部シリラート病院, 国立大学マヒドン大学: 10700 タイ バンコク ワンランク道路

<sup>2)</sup>株式会社スケアクロウ: 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町11-8 梅山ビル2F

## 2. ウラジロンを使用後の回復結果

採取した尿は少量の赤血球 (RBC) が見つかった。RBCが多くあった場合は出血を示している。RBCの検出がみられた犬と猫の投与後の尿分析を行い、5頭のうち3頭はRBCが減少した。血尿の場合、尿の色が赤く、尿試験紙検査は強い陽性 (4+) を示す。ウラジロンを30日間服用した後、尿のRBCレベルについての結果は、薬剤と併用なし対象では2頭がやや減少、2頭は変化なし、ウラジロンと薬剤併用した対象、2頭は有意な減少結果を示した。

さらに、白血球(WBC)の数値は判断基準ではないが、WBCとバクテリアの増減は泌尿器系の炎症に関係するため、検証した。薬剤と併用なし4頭はWBCが減少したが、1頭は変化なし、うち3頭は増加していた。薬剤と併用した3頭はWBCが減少したが、2頭は変わらない。バクテリア量の場合、薬剤と併用なし3頭は菌が減少したが、4頭は変わらない。薬剤と併用した1頭は菌が減少した。他の対象は変わらない。

約50%の対象は赤血球と白血球が大幅に減少した。また、全ての対象は30日間投与後の尿検査により、菌の数は30-40%を減少した。

## 考察と結論

ウラジロンは、尿路結石、抗炎症、抗酸化、抗アレルギーを治療のために日本で広く使用されてきた。多岐にわたった研究により、細胞株・人間・動物に対し効果があると証明した。

今回の治験を通し、ウラジロンを尿路疾患症状のある患畜に用いることで犬・猫の健康状態の改善と予防・維持に期待できる結果となった。ペットオーナーのフィードバックでは、ペットたちの尿量の増加や水分摂取量増加、一般状態の改善の報告があった。

ウラジロンは尿路の健康を維持し、犬や猫の尿路で最適な機能をサポートすることが期待できる。また、ウラジロガシエキスには、アンジオテンシン (ACE)変換酵素の阻害効果も報告されている。

ペットの尿路問題では食餌、適切な治療とストレスの緩和が重要である。もう一つ大切なのはサプリメント等を上手に使用して尿路疾患を防ぎ健康状態を維持することである。